

News Letter 第6号

2012年1月10日発行

発行人 主教 加藤博道

編集人 司祭 中村 淳



いっしょに歩こう！ プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援

まゆだま制作

社会福祉法人 円

まどか 荒浜

宮城県仙台市若林区荒浜



いっしょに歩いている施設の紹介



クッキー制作

社会福祉法人 洗心会

ワークショップ ひまわり

宮城県気仙沼市赤岩

障がいを持った方々とのつながり

いっしょに歩こう！プロジェクト スタッフ
松村 希（長野聖救主教会）

いっしょに歩こう！プロジェクトでは2つの通所作業所とつながりを持っています。仙台市にある「まどか荒浜」と気仙沼市にある「ワークショップひまわり」です。これらの通所作業所は、知的障がいを持つ利用者のみなさんが社会的・経済的に自立するための支援施設です。どちらの作業所も、またそれぞれの運営母体となる社会福祉法人も地震、津波、火災などの大きな被害を受けています。利用者のみなさん、またスタッフのみなさんも、今もなお困難な環境におかれています。

現在プロジェクトは継続的に「まどか荒浜」からはまゆだまを使用した商品を、「ワークショップひまわり」からはクッキーを買い上げています。そして国内外にいる震災支援に想いを寄せてくださっている方々の手にお届けしています。それぞれの通所作業所の製品を購入することによって仕事を作り出すことができ、その成果として利用者のみなさんに工賃が支払われます。この工賃は、自立した生活を支える貴重な収入源です。現在、聖公会関係の諸施設、諸教会からも多くの注文が入り利用者の皆さんは非常にモチベーション高く作業されています。

また、このプロジェクトをきっかけにそれぞれの作業所のファンが増え、プロジェクトの活動が終了した後もそのつながりが継続されれば、それは今後の両施設の自立へと繋がります。それがこのプログラムの最終目標でもあります。

私たちは利用者の皆さんの生活に張り合いが出るよう、希望を持てるようにと祈りながら、1日も早い事業の復興と安定した作業環境・就労の支援をし、いっしょに歩こう！と考えています。



被災直後の「まどか荒浜」

ひまわりとの出会い

「ひまわり」は気仙沼にある社会福祉法人「洗心会」の通所施設です。軽度の知的しょうがいをお持ちの利用者さんが毎日通って、主にパンの製造や水産加工場での作業を通じて少ないながら給料を得ることができていました。利用者さんたちはその自分で稼いだ給料で自分の好きなものを買うことが大きな喜びとなっていました。そして震災直前に気仙沼市内の海に近い、より便利な場所への移転が決定していました。4月1日開所予定のその建物は震災と津波とその後の大火災によって跡形も無くなってしまいました。幸い、利用者さんたちが当日おられたのは山側にある今までの施設でした。その施設はそのまま避難所となり、利用者さん、ご家族、スタッフが一ヶ月を過ごされたそうです。

ひまわりとわたし達プロジェクトをつないでくださったのは、東京にあるしょうがい者施設「滝野川学園」の高瀬聖職候補生（東京教区）です。高瀬さんは4月から気仙沼地域のしょうがい者施設への支援に、東京地区の他の施設と協働で入られ、洗心会と出会われました。高瀬さんは仙台の私たちのオフィスをお訪ねくださり、このプロジェクトではしょうがい者への支援はどうなっているか、と言うことを聞いてくださいました。私たちはミッションステートメントによって大きな課題となっていることをお伝えしました。その会話の中から洗心会、特にひまわりのことが提案されて、すぐにひまわりのスタッフさんが仙台の私たちのオフィスをお訪ねくださいました。そのスタッフさんは気仙沼での被災について語ってくださったほか、避難所にいる利用者さんたちがとても不安に思っていること、ご家族も大変苦労していることをお話くださいました。その話の中からひまわりができるだけ早く今までと同じように運営されることが、大きな支援になることが確認されました。利用者さんのみならず、そのご家族をも勇気付けることがわかったのです。支援の方法はまどかと同じで、生産された製品を買い上げることによって利用者さんへの賃金に当てる、と言うものです。ひまわりはクッキーの製造に主力を変えておられたので、このクッキーを買い上げて皆さんにお配りすることとしました。今ではスタッフが週1～2回程度お伺いし、利用者さんと一緒に作業を行っています。さらには利用者さんの送迎や仮設住宅におられるご家族への支援も始まっています。

暖かな絆

ワークショップひまわり
スタッフ 伊藤純子

震災の被害が大きく、就労を目指す利用者さんに工賃さえ支払えない現状と瓦礫の姿に変わった町で、進むべき道さえ見えない時、「私たちに、お手伝い出来る事は何？」司祭様より掛けて頂いた言葉が、今も忘れられません。心の声「助けて」の叫びを暖かな絆の想いで受け止めて下さいました。支援のプロジェクトのお力で、利用者は働く喜びをそして、支援する職員も安心感を得ました。同じ目線で、多様なニーズに対応して下さい「いっしょに歩こう」の皆さんや顔の見える支援をと、製造した菓子を購入して頂く聖公会の皆様は、絆で繋がった仲間だと信じ、出会えたことに感謝致しております。障がいは壁を作り出すことから害となり、害は心の力や言葉そして、支えで無くなります。明日への希望を持ち、素敵な笑顔が曇ることの無い様に、これからも、ご支援と御協力をお願い致します。



ひまわりへの支援に関わって

日本聖公会婦人会長 村井恵子

2011年9月から「ひまわり」のクッキーを日本聖公会婦人会のネットワークで頒布することが決まりましたが、もっと便利な場所にと気仙沼に新築した施設が津波と火事の被害に遭って一度も使用できなかったことを知り、支援への気持ちに拍車がかかりました。日本聖公会婦人会から教区婦人会、そこから教会婦人会へとご協力への要請を流しました。その反響は早く、あちこちの婦人会からお問い合わせがあり、クッキーを通してその方とも教会ともつながれる喜びを感じました。毎週 250 袋というのはなかなかのプレッシャー。まして生もので賞味期限は1ヶ月。1つの教会ではさばき切れないのではという予想の中、知恵と連携の力を働かせてくださり、近隣の教会と分け合ったり、バザーの折に宣伝したり…。「おいしい」「もっと欲しい」等、好反応が続々です。予約が殺到してご希望に沿えないこともありましたが、「ひまわり」に直接注文する方法で解決することが出来ました。ただ、この場合は送金方法に違いがありますのでご注意ください。「ひまわり」の皆様から一生懸命な作業中のお写真とお礼の言葉をいただいています。来年の 8 月までの支援です。行事などが決まっている場合はお早めにご予約下さい。クッキーを召し上がっていただき「ひまわり」を覚えてお祈り下されば本当に嬉しいです。最新の予約状況は <http://nisseifu.holy.jp/himawari/> でご覧になれます。今後とも皆様からの温かいご協力をお願い申し上げます。

まどか荒浜との出会い

まどか荒浜との出会いは元仙台基督教会の信徒さん（現在は横浜聖アンデレ教会信徒）からの一本のお電話によって始まりました。その信徒さんから津波で大きな被害を受けたしょうがい者通所施設がある、そこを何とか支援できないものか、というお電話でした。しょうがい者支援の出会いを模索していた私たちは早速その信徒さんとともにまどか荒浜をお訪ねしました。もちろん、津波に流されてしまった元の場所ではなく、間借りしているしょうがい者施設の一角でした。理事長さんと施設長さんから丁寧なご説明をいただき、知的しょうがいをお持ちの利用者さんたちができるだけ早く元のような生活サイクルに戻ることが大事なことで、そのためには通所施設として成り立っていかねばならないこと、が良く理解できました。通所施設として成り立っていくためには利用者さんが行う作業があること、その作業成果が販売され、売り上げとして金銭が入ること、その金銭が利用者さんに給与として支払われること、もよく理解できました。まどか荒浜は震災前まで和菓子の製造、和紙の製造等を柱にしていました。しかし、その設備が流されてしまい続けることができなくなってしまいました。急遽まゆ玉を使ったグッズ、人形を作ることにしましたが、経験のない商品で販売先に苦慮していました。私たちはまゆ玉を使った人形をクリスマスオーナメントやイースターエッグで製作してもらえるようお願いし、その製品を一定量、一年間買い上げることとしました。製品は9月から納品され始めており、主に海外聖公会の教会・団体へお渡ししています。このまゆ玉オーナメントを手取る人がこの大震災を、まどか荒浜の利用者を覚えて祈り、更なる支援につなげようという試みです。私たちスタッフは折に触れてまどかをお訪ねし、ボランティアワークを行うようにしています。できるだけ利用者さんとの顔をつなぎ、その関係を広く多くの方々と共有したいと思っています。私たちの支援が終了してもまどかの活動は続きます。まどかは仙台市内の新しい土地での再建が決定しています。まどかで生産される製品を通じて長く支援の輪が繋がっていくことが願いです。



感謝

まどか荒浜スタッフ 中村正利

知的障害者福祉サービス事業の「まどか荒浜」は 46 人の利用者が、和菓子・和紙の製造販売の作業に取り組んでいました。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災・大津波により、建物・機械設備の一切を破壊されました。幸い、利用者全員は、3.5 キロメートル離れた中学校に無事避難し、犠牲者を出さずに済みました。いま、16 キロメートル離れた仙台市太白区袋原の「仙台ワークキャンパス」の一角を借用して、まゆ細工（「福幸だるま」・「イースターエッグ」）作りの作業に取り組んでいます。利用者の作った製品は、「いっしょに歩こう！プロジェクト」様に、お買い上げ頂き、新たに販路を切り開いてくださったお蔭で、売れ行きも伸びました。収益の全額が、利用者の工賃として還元され生活費の一部に充てられますので、プロジェクト様のご活動には、大変助かっており、また、製作への意欲と励みを与えて下さっておりますことに、心から感謝申し上げます。



今もいっしょに！

いっしょに歩こう！プロジェクト スタッフ 福澤真紀子（米国在住）

「いっしょに歩こう！」スタッフとして働き始めて、知的障害者就労支援施設「まどか荒浜」（以下「まどか」）の支援に携わる機会を頂きました。震災のショックとその後の大きな生活の変化を強いられた利用者さんにとって、生産活動が続けること、また自分の作った製品が売れることが大きな支えと励みになるという話を伺い、



まどか職員の方たちと商品企画や販売ルートの確立を目指しました。仮作業所は、場所も道具も限られていますが、利用者さんが少しでも楽しく仕事ができるようにと、職員さん達の手で工夫され、手作りの道具が揃えられていました。そこで一生懸命まゆ玉の製品を作る利用者の方々とそれを励まし支える職員の方々の背中が、今も心に焼き付いています。11月にカリフォルニア州バークレーで開かれた International Crafts Fair で「いっしょに歩こう!プロジェクト」のポスターを掲げ、まどかのまゆ玉オーナメントと復興達磨を出品しました。12月には同市 St. Mark's Episcopal Church でもまゆ玉製品販売の机を設けます。同じ教会で1月には日本聖公会の震災支援活動を紹介

するフォーラムも開かれます。まどかの皆さんのあの背中を伝えようと、色々な言葉を探しています。関心はあっても、震災から9カ月経ち、その後の被災地の具体的な情報が届かない人達へ、何をどのように伝えていけるかが私の今の課題です。

「いっしょに歩こう!プロジェクト」について

「いっしょに歩こう!プロジェクト」は日本聖公会として初めて管区レベルで立ち上げた災害支援の枠組みです。各教会、各教区、各団体での活動とともに、日本聖公会全体で被災地とともに歩んでいこう、という願いの表れであると考えられます。このプロジェクトは「東日本大震災各教区対策本部担当者の会」での意思を常議員会で承認し、実際の運営については常議員会で承認された「運営委員」が意思決定しています。執行機関として仙台オフィスと各ベースが置かれ、それぞれ専任のスタッフが任命されてプログラムの実施に当たっています。

10月に開催された運営委員会でプロジェクトのルール、組織が決定され、その後の常議員会で承認されました。プロジェクトは植松首座主教を代表として、10名以内の運営委員によって方針が決定されます。重要事項については常議員会の承認を必要としています。運営委員によって決定された事柄が加藤東北教区主教を本部長とし、そのもとに管区事務所から派遣されている中村淳司祭が総合ディレクター、東北教区の長谷川清純司祭がプログラムディレクター、東京教区の松村豊氏が事務長、としてこの4者で本部会議を構成し執行されます。本部会議のもとに各スタッフが置かれてプログラムが実行されます。各スタッフはベースに属して地域や、カテゴリーごとのプログラムを必要な準備やボランティアスタッフの手配等を行って実行します。釜石ベースは北海道教区の支援、小名浜ベースは京都・大阪・神戸の京阪神3教区の支援でそれぞれ「釜石被災者支援センター」「小名浜聖テモテボランティアセンター」の名称で活動しています。この二ヶ所以外は仙台圏ベースに属しており、仙台からそれぞれの支援地へ出向いていっています。

すべての活動は日本国内、全世界からの献金によってまかなわれています。各教区に会計処理を委託している場合もありますが、大半は管区事務所において献金の入金から決算まで処理されており、最終的には管区事務所にまとめられて監査を受けた後に決算として処理されます。また、オフィス、ベースの維持運営やプログラムの実施等の出金についてはルールが設けられており、それぞれのレベルで責任者が決済しています。もちろん、これらの処理については適切な段階で公表されますし、段階ごとに報告もされます。

これらの業務を遂行しているスタッフは各教区からの信徒・教役者、さらには各教区教務所・教区事務所スタッフ、管区事務所スタッフも広い意味でスタッフと言えると思います。この働きを支えているのは実際にプログラムを実行しているものだけではないのです。このことも合わせてお覚えていただければ、と思います。

■ボランティア募集のお知らせ

各ベースでのボランティア募集は基本的にホームページに掲載しています。釜石ベース、小名浜ベースでは継続的に募集していますが、状況に変化がありますのでホームページでご確認のうえ直接お申し込みください。ホームページ掲載情報を周囲の方と共有してくださると幸いです。

【URL:<http://www.nskk.org/walk/index.html>】



「いっしょに歩こう!プロジェクト」事務局

【open】月～金 10:00～17:00 【close】土・日・祝

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-4-5 クライスビル 2F

TEL: 022-265-5221 FAX: 022-748-5321

E-mail: walk@nsk.org

URL: <http://www.nskk.org/walk/>